

AXIS S3016 Recorder

デバイスについて

AXIS S3016 Recorderは、PoEスイッチと監視クラスのハードドライブを統合したネットワークビデオレコーダーです。また、ビデオ映像を簡単にエクスポートできるUSB 3.0ポートも搭載しています。レコーダーには、8 TB、16 TB、32 TBの3つのモデルがあります。

使用に当たって

装置にアクセスする

ネットワーク上のデバイスを検索する

Windows®でネットワーク上のAxis装置を見つけ、IPアドレスを割り当てるには、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Manager Extendを使用します。いずれのアプリケーションも無料で、axis.com/supportからダウンロードできます。

IPアドレスの検索や割り当てを行う方法の詳細については、*IPアドレスの割り当てとデバイスへのアクセス方法を参照してください。*

ブラウザーサポート

以下のブラウザーでデバイスを使用できます。

	Chrome™	Edge™	Firefox®	Safari®
Windows®	✓	✓	*	*
macOS®	✓	✓	*	*
Linux®	✓	✓	*	*
その他のオペレーティングシステム	*	*	*	*

✓: 推奨:

*: 制限付きでサポート

装置のwebインターフェースを開く

1. ブラウザーを開き、Axis装置のIPアドレスまたはホスト名を入力します。この装置のIPアドレスが不明な場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Manager Extendを使用して、ネットワーク上でこの装置を見つけてください。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。装置に初めてアクセスする場合は、管理者アカウントを作成する必要があります。管理者アカウントを作成する, *on page 3*を参照してください。

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースでの全機能と設定に関する説明については、*AXIS OS Webインターフェースヘルプ*を参照してください。

管理者アカウントを作成する

装置に初めてログインするときには、管理者アカウントを作成する必要があります。

1. ユーザー名を入力してください。
2. パスワードを入力します。安全なパスワード, *on page 4*を参照してください。
3. パスワードを再入力します。
4. 使用許諾契約書に同意します。
5. [**Add account (アカウントを追加)**] をクリックします。

重要

装置にはデフォルトのアカウントはありません。管理者アカウントのパスワードを紛失した場合は、装置をリセットする必要があります。レコーダーをハードリセットする, on page 10を参照してください。

安全なパスワード

重要

ネットワーク上でパスワードやその他の機密設定を行う場合は、HTTPS (デフォルトで有効になっています) を使用してください。HTTPSを使用すると、安全で暗号化された形でネットワークに接続できるため、パスワードなどの機密データを保護できます。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストールで使用できるようにするためパスワードポリシーを強制しません。

データを保護するために、次のことが強く推奨されています。

- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する

装置に元のAXIS OSが搭載されていることを確認するか、またはセキュリティ攻撃が行われた後に装置を完全に制御するには、以下の手順に従います。

1. 工場出荷時の設定にリセットします。レコーダーをハードリセットする, on page 10を参照してください。
リセットを行うと、セキュアブートによって装置の状態が保証されます。
2. デバイスを設定し、インストールします。

webインターフェースの概要

このビデオでは、装置のwebインターフェースの概要について説明します。



Axis装置のwebインターフェース

使用に当たって

注

システムの設定を行うときはインターネットアクセスが必要です。

1. My Axisアカウントを登録する, on page 5
2. ハードウェアのインストール, on page 5
3. AXIS Camera Station Edgeのインストール, on page 5
4. サイトを作成する, on page 5
5. モバイルアプリをインストールする, on page 6

インストールが完了したら:

- システム内のすべてのAxisデバイスには最新のAXIS OSが搭載されています。
- すべての装置にはパスワードがあります。
- デフォルト設定での録画が有効です。
- リモートアクセスが使用できます。

My Axisアカウントを登録する

1. axis.com/my-axis/loginで**My Axis**アカウントを登録します。
2. 多要素認証 (MFA) 方法として**認証アプリ (TOTP)** または**Eメール**のいずれか1つを選択し、画面に表示される指示に従います。MFAは、ユーザーの本人確認のためのさらなるレイヤーを追加するセキュリティシステムです。

ハードウェアのインストール

1. カメラのハードウェアをインストールします。
2. LANポート経由でレコーダーをネットワークに接続します。
3. カメラをレコーダー内蔵のPoEスイッチまたは外部PoEスイッチに接続します。
4. コンピューターをレコーダーと同じネットワークに接続します。
5. 電源をレコーダーに接続します。

重要

まずレコーダーに電源コードを接続し、電源ケーブルをコンセントに接続する必要があります。

6. 録画やカメラが起動するまで数分間待つてから、続行してください。

▲ 注意

オーバーヒートを避けるため、換気の良い環境にレコーダーを置き、レコーダーの周りに十分なスペースを確保してください。

AXIS Camera Station Edgeのインストール

1. axis.com/products/axis-camera-station-edge/に移動し、**[Download (ダウンロード)]** をクリックします。
2. 設定ファイルを開き、設定アシスタントに従います。
3. My Axisアカウントでサインインします。

サイトを作成する

1. AXIS Camera Station Edgeを起動します。
2. My Axisアカウントでサインインします。
3. **[Create new site (新規サイトの作成)]** をクリックして、サイト名を付けます。
4. **[Next (次へ)]** をクリックします。
5. サイトに追加するデバイスを選択します。
6. **[Next (次へ)]** をクリックします。
7. ストレージを選択します。
8. **[Next (次へ)]** をクリックします。
9. **[Install (インストール)]** をクリックし、AXIS Camera Station Edgeがデバイスを設定するまで待ちます。
設定の完了までに数分かかる場合があります。

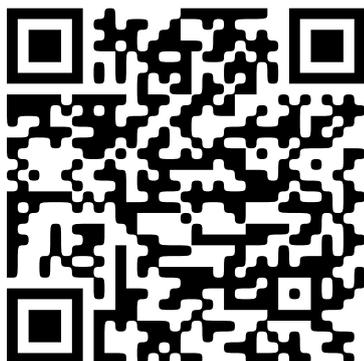
インストールが完了したら:

- システム内のすべてのAxisデバイスには最新のAXIS OSが搭載されています。
- すべての装置にはパスワードがあります。
- デフォルト設定での録画が有効です。
- リモートアクセスが使用できます。

モバイルアプリをインストールする

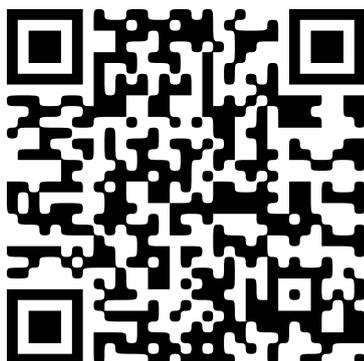
Android版

[Download (ダウンロード)] をクリックするか、次のQR Code®をスキャンします。



iOS版

[Download (ダウンロード)] をクリックするか、次のQR Codeをスキャンします。



AXIS Camera Station Edgeモバイルアプリを開き、Axisの認証情報でログインします。

My Axisアカウントをお持ちでない場合は、axis.com/my-axisにアクセスして新しいアカウントを登録できます。

QRコードは、日本およびその他の国々におけるデンソーウェーブ株式会社の登録商標です。

AXIS Camera Station Proでの作業の開始

レコーダーを追加する

注

AXIS Camera Stationは、レコーダーを新しいシステムに追加するときに、以前のシステムから録画を削除します。

1. [設定] - [デバイス] - [デバイスの追加] を選択します。
2. リストからレコーダーを選択し、[Add (追加)] をクリックします。レコーダーが表示されていない場合は、[Manual search (手動検索)]を使用して手動で検索してください。
3. デフォルト設定を使用し、[Next (次へ)] をクリックします。

4. ストレージ暗号化のパスワードを設定します。[Next (次へ)] をクリックします。このパスワードは、レコーダーハードドライブにAXIS Camera Station外からアクセスする場合や、装置のWebインターフェースからレコーダーを工場出荷時の設定にリセットする場合に必要です。
5. [Configuration > Devices > Other devices (設定>デバイス>他のデバイス)] に移動し、レコーダーが追加されているのを確認します。
6. [Configuration > Storage > Management (設定>ストレージ>管理)] に移動し、レコーダーがストレージリストに追加されていることを確認します。

装置を追加し、録画ストレージとしてレコーダーを選択する

1. [設定] - [デバイス] - [デバイスの追加] を選択します。
2. リストから装置を選択し、[Add (追加)] をクリックします。デバイスがリストされていない場合は、[Manual search (手動検索)] を使用して手動で検索してください。
3. デフォルト設定を使用し、[Next (次へ)] をクリックします。
4. [Recording storage (録画ストレージ)] ドロップダウンリストからレコーダーを手動で選択し、[Install (インストール)] をクリックします。

注

[Automatic (自動)] を選択した場合、レコーダーは録画ストレージとして選択されません。

5. [設定] - [ストレージ] - [選択] を選択します。装置をクリックし、録画ストレージがレコーダーか確認します。

録画を設定

1. [Configuration > Storage > Selection (設定 > ストレージ > 選択)] に移動し、デバイスを選択します。
2. [Retention time (保存期間)] を設定します。
 - ストレージが一杯になるまで録画を保存するには、保存期間に [Unlimited (無制限)] を選択します。
 - [Limited (制限付き)] を選択して、録画を保存する最大日数を設定します。
3. [適用] をクリックします。

注

[Fallback recording (フォールバック録画)] はデフォルトで有効になっており、AXIS Camera Stationとレコーダーの接続が失われたときに、録画がレコーダーに保存されます。フォールバック録画を参照してください。

デバイスを構成する

電力の割り当て

レコーダーはポートごとに一定の電力を確保しています。予約電力の合計は合計電源容量を超えることはできません。レコーダーが使用可能な電力以上の電力を確保しようとした場合、ポートには電力が供給されません。これにより、接続されているすべての装置に確実に電源が供給されるようになります。

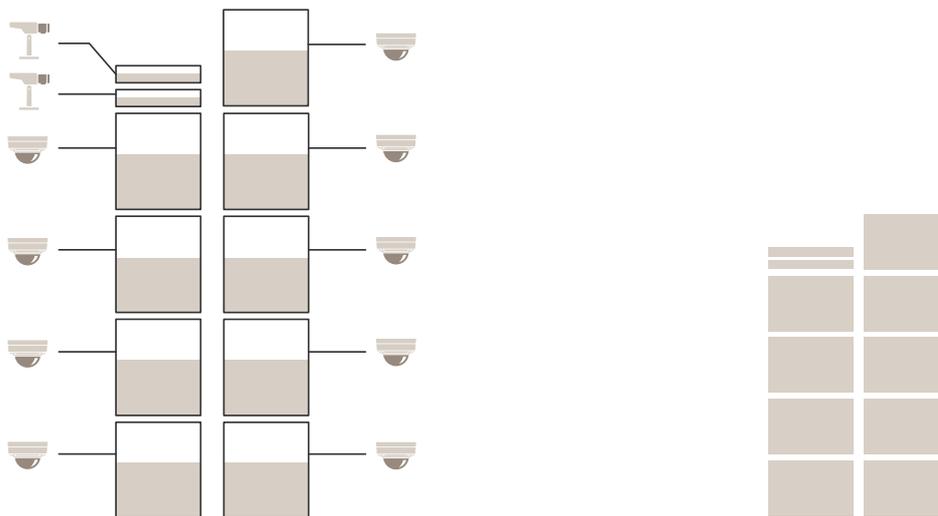
例:

この例では:

- AXIS S3016 Recorderの合計電源容量は305 Wです。
-  PoE Class 3装置。要求する電力は15.5 Wですが、実際消費する電力は7.5 Wです。
-  PoE Class 4装置。要求する電力は30 Wですが、実際消費する電力は15 Wです。
-  確保する電力。
-  実際の消費電力。

確保された電力

実際の消費電力



- 各ポートは、デバイスのPoEクラスに従って電力量を確保します。
- レコーダーは、9台のPoE Class 4装置と2台のPoE Class 3装置を給電できます。
- 最大占有電力は $(9 \times 30) + (2 \times 15.5) = 301$ Wです。
- 実際に消費される電力は、 $(9 \times 15) + (2 \times 7.5) = 150$ Wです。

RAIDが劣化した場合に自動的に電子メールを送信します

メール送信先を追加する:

1. [System (システム)] > [Events (イベント)] > [Recipients (送信先)] に移動し、[Add recipient (送信先の追加)] をクリックします。
2. 送信先の名前を入力します。
3. 通知のタイプとして電子メールを選択します。
4. 送信先の電子メールアドレスを入力します。
5. デバイスが通知を送信する際の、送信元電子メールアドレスを入力します。
6. 電子メール送信用アカウントのログイン詳細とSMTPホスト名、ポート番号を入力します。

7. 電子メールの設定をテストするには、[Test (テスト)] をクリックします。
8. [保存] をクリックします。

ルールの作成:

9. [System > Events > Rules (システム > イベント > ルール)] に移動し、[Add a rule (ルールの追加)] をクリックします。
10. ルールの名前を入力します。
11. 条件の一覧から、[RAID status (RAIDのステータス)] > [RAID degraded (RAIDの劣化)]の順に選択します。
12. アクションのリストで、[Send notification to email (電子メールに通知を送信する)] を選択します。
13. リストから送信先を選択します。
14. 電子メールの件名とメッセージを入力します。
15. [保存] をクリックします。

RAIDレベルの変更

▲ 注意

RAIDレベルを変更すると、ファイルシステムが再フォーマットされ、ディスクからすべてのデータが削除されます。

1. 装置のwebインターフェースで、[System (システム)] > [Storage (ストレージ)] に移動します。
2. [Tools (ツール)] で、[Change RAID level (RAIDレベルの変更)] を選択し、[Use tool (ツールを使用)] をクリックします。
3. RAIDレベルを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
4. [Encrypt the disk (ディスクの暗号化)] を選択し、パスワードを入力します。[Next (次へ)] をクリックします。
5. [Yes (はい)] をクリックします。
6. ステータスメッセージが右上隅に表示されます。操作が完了し、RAID configuredが表示されるまで待ってから、ページを閉じます。

ハードドライブの交換

注

静電放電を避けるために、システム内部のコンポーネントを操作するときは、常に静電マットと静電ストラップを使用することをお勧めします。

1. ベゼルの左右のネジを緩め、ベゼルを取り外します。
2. 赤色のLEDで示される故障したハードドライブを見つけます。
RAIDに障害が発生した場合、すべてのLEDが赤色に点灯します。故障したハードドライブを特定するには、装置のwebインターフェースにアクセスし、[System (システム)] > [Storage (ストレージ)] > [Hard drive status (ハードドライブのステータス)] に移動します。
3. ハードドライブスレッド (T10) のネジを緩めます。
4. ハードドライブスレッドをハードドライブベイから引き出します。
5. ハードドライブ (T8) の4本のネジを緩めます。
6. ハードドライブをハードドライブスレッドから取り出します。
7. 新しいハードドライブをハードドライブスレッドに挿入します。
8. ハードドライブの4本のネジを締めます。
9. ハードドライブスレッドをハードドライブベイの奥まで押し込みます。

10. ハードドライブスレッドのネジを締めます。LEDインジケーターが緑色になるまで待機してください。
11. ベゼルを取り付け、ベゼルの左右のネジを締めます。

新しいRAIDの作成

▲ 注意

新しいRAIDを作成するのは、RAIDに障害が発生した場合のみです。新しいRAIDを作成すると、ハードドライブからすべてのデータが削除されます。

1. 故障したハードドライブを交換します。ハードドライブの交換, *on page 9*を参照してください。
2. RAIDを設定します。RAIDレベルの変更, *on page 9*を参照してください。
3. ビデオ管理システムで録画を設定します。「使用に当たって, *on page 4*」および「AXIS Camera Station Proでの作業の開始, *on page 6*」を参照してください。

レコーダーをハードリセットする

重要

レコーダーは電源がオンになっている間は慎重に動かしてください。突然動かしたり衝撃を与えたりすると、ハードドライブが破損する場合があります。

注

- ハードリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定がリセットされます。
 - ハードリセットを行っても、録画は削除されません。
1. レコーダーの電源を切る：
レコーダーの前面にある電源ボタンを、ピープ音が聞こえるまで4~5秒間押し続けます。
 2. レコーダーがオフになるまで待ってから、裏返してコントロールボタンにアクセスします。
 3. コントロールボタンを押し続けます。電源ボタンを押して放し、レコーダーを起動します。コントロールボタンを15~30秒間押し、LEDインジケーターがオレンジ色に光ったらリセットボタンを放します。
 4. レコーダーを所定の場所に慎重に戻します。
 5. プロセスが完了すると、ステータスLEDが緑色に変わります。これで本製品は工場出荷時の設定にリセットされました。ネットワーク上にDHCPサーバーがない場合、装置のIPアドレスのデフォルトは次のいずれかになります。
 - **AXIS OS 12.0以降の装置:** リンクローカルアドレスサブネット (169.254.0.0/16) から取得
 - **AXIS OS 11.11以前の装置:** 192.168.0.90/24
 6. ハードドライブが暗号化されている場合は、レコーダーをリセットしてから手動でマウントする必要があります。
 - 6.1. 装置のwebインターフェースに移動します。
 - 6.2. [System (システム)] > [Storage (ストレージ)] に移動し、[Mount (マウント)] をクリックします。
 - 6.3. ハードドライブを暗号化する際に使用する暗号化パスワードを入力します。

webインターフェース

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースで利用可能なすべての機能と設定については、AXIS OSウェブインターフェースのヘルプを参照してください。

詳細情報

サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティに関する製品固有の情報については、axis.comの製品データシートを参照してください。

AXIS OSのサイバーセキュリティの詳細情報については、『AXIS OS強化ガイド』を参照してください。

署名付きOS

署名付きOSは、ソフトウェアベンダーがAXIS OSイメージを秘密鍵で署名することで実装されます。オペレーティングシステムに署名が付けられると、装置はインストール前にソフトウェアを検証するようになります。装置でソフトウェアの整合性が損なわれていることが検出された場合、AXIS OSのアップグレードは拒否されます。

セキュアブート

セキュアブートは、暗号化検証されたソフトウェアの連続したチェーンで構成される起動プロセスで、不変メモリ (ブートROM) から始まります。署名付きOSの使用に基づいているため、セキュアブートを使うと、装置は認証済みのソフトウェアを使用した場合のみ起動できます。

Axis Edge Vault

ハードウェアベースのサイバーセキュリティプラットフォーム「Axis Edge Vault」により、Axisデバイスを保護することができます。装置のIDと整合性を保証し、不正アクセスから機密情報を保護する機能を提供します。これは、エッジデバイスセキュリティに関する専門知識を駆使して、暗号コンピューティングモジュール (セキュアエレメントやTPM) とSoCセキュリティ (TEEやセキュアブート) に基づき構築された強力な基盤により成り立っています。

TPMモジュール

TPM (トラステッドプラットフォームモジュール) は、不正アクセスから情報を保護するための暗号化機能を提供するコンポーネントです。常に有効になっていて、変更できる設定はありません。

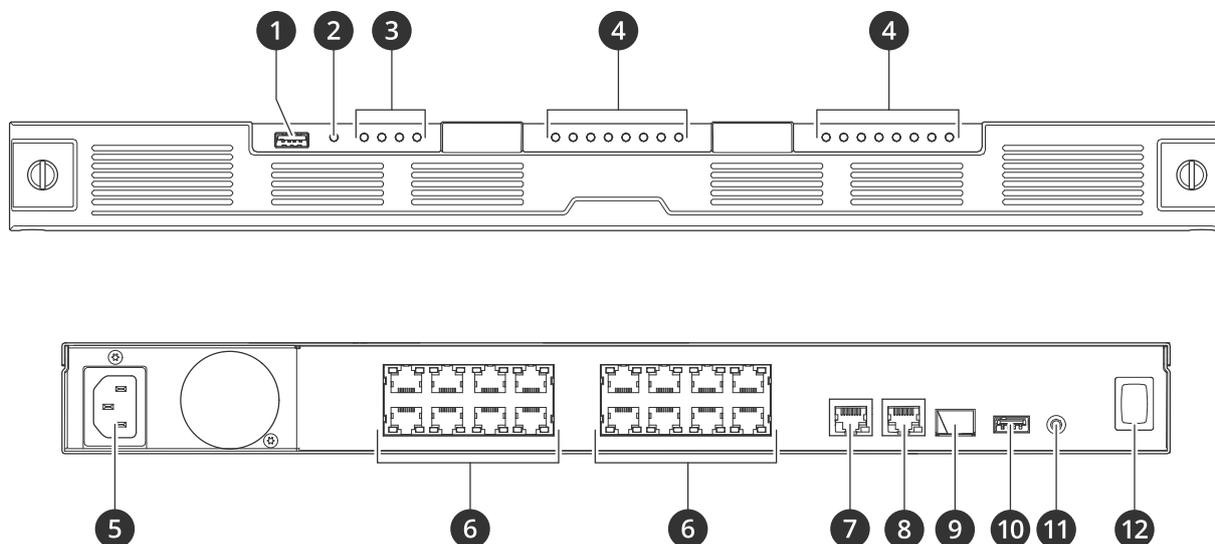
AxisデバイスID

デバイスIDの信頼性を確立するには、デバイスの出所を確認できることが鍵となります。Axis Edge Vaultを搭載したデバイスには、生産工程で、工場プロビジョニングされ、国際規格 (IEEE 802.1AR) に準拠した一意のAxisデバイスID証明書が割り当てられます。これがデバイスの出所を証明するパスポートのような役割を果たします。デバイスIDは、Axisルート証明書により署名された証明要素として、セキュリティで保護されたキーストアに安全かつ永続的に格納されます。お客様のITインフラストラクチャーでデバイスIDを活用し、装置のセキュアな自動化オンボーディングや、装置のセキュアな識別に役立てることができます。

Axis装置のサイバーセキュリティ機能の詳細については、axis.com/learning/white-papers/にアクセスし、サイバーセキュリティを検索してください。

仕様

製品概要



- 1 USB 3.0ポート
- 2 製品ステータスLED
- 3 ハードドライブステータスLED
- 4 PoE/ネットワークステータスLED
- 5 電源コネクタ
- 6 PoEポート
- 7 AUX RJ45ポート
- 8 LAN RJ45ポート
- 9 LAN SFPポート
- 10 USB 2.0ポート
- 11 コントロールボタン
- 12 電源ボタン

仕様

フロントLED

LED	カラー	説明
製品のステータス	緑	レコーダーがオンになっており、ステータスは正常です。
	オレンジ	レコーダーの起動中か、デバイスソフトウェアのアップグレード中です。LEDインジケータが緑色になるまで待機してください。
	赤	これは、PoEの予算を超えたことを意味している場合があります。装置をレコーダーに接

		続したばかりの場合は、削除してみてください。
ハードドライブステータス	緑	ドライブはオンラインです。
	緑点滅	RAIDの同期処理が進行中です。録画は可能ですが、冗長性はまだ確保されていません。
	オレンジ	このドライブはオンラインですが、別のドライブが故障しています。 RAIDが冗長性を失っています。
	赤	ドライブが故障しています。
	すべてが赤	RAIDに障害が発生しました。システムは録画していません。 RAIDに障害が発生した場合、故障したハードドライブを特定するには、装置のwebインターフェースにアクセスし、 [System (システム)] > [Storage (ストレージ)] > [Hard drive status (ハードドライブのステータス)] に移動します。
	オフ	ハードドライブがありません。
PoEのステータス	緑	装置が接続されています。
	オレンジ	PoEは使用中ですが、ネットワークリンクがありません。
	赤	接続された装置が起動できません。 PoE供給容量を超過しています。 PoEに障害が発生しています。
	オフ	ポートは使用されていないか、無効になっています。

リアLED

LED	カラー	説明
ネットワークポート	緑点滅	2.5ギガビット/秒
	黄点滅	1ギガビット/秒
	オフ	ネットワークなし

PoEポート 左LED	緑	PoEが使用されています。
	赤	PoEに障害が発生しています。 PoE供給容量を超過しています。
	オフ	ポートは使用されていないか、無効になっています。
PoEポート 右LED	緑点滅	1ギガビット/秒
	黄点滅	100 Mbit/秒
	オフ	ネットワークなし

電源ボタン

- レコーダーをシャットダウンするには、電源ボタンを長押しすると、簡単な音が鳴ります。
- ブザーを無音にするには、電源ボタンを少し押します。

コントロールボタン

コントロールボタンは、以下の用途で使用します。

- 製品を工場出荷時の設定にリセットする。レコーダーをハードリセットする, *on page 10*を参照してください。
- インターネット経由でワンクリッククラウド接続 (O3C) サービスに接続します。接続するには、ステータスLEDが緑色に点滅するまで約3秒間ボタンを押し続けます。

トラブルシューティング

技術的な問題、ヒント、解決策

問題	解決策
録画が利用できません。	一般的な問題を解決する, on page 16に移動します。
カメラに接続できません。	一般的な問題を解決する, on page 16に移動します。
“No contact (接続できません)” というエラー通知が表示されます。	一般的な問題を解決する, on page 16に移動します。
モバイルアプリに自分のサイトが表示されません。	最新のAXIS Camera Station Edgeモバイルアプリであることを確認します。

一般的な問題を解決する

再起動する前に、装置を設定またはリセットします。

1. カメラとレコーダーに電力が供給されていることを確認します。
2. インターネットに接続されていることを確認します。
3. ネットワークが動作していることを確認します。
4. リモートでない場合は、カメラがコンピューターと同じネットワークに接続されていることを確認します。

まだ動作しませんか？

5. カメラ、レコーダー、およびAXIS Camera Station Edgeに最新のデバイスソフトウェアが適用されていることを確認します。
AXIS OSをアップグレードする, on page 16を参照してください。
6. AXIS Camera Station Edgeを再起動します。
7. カメラとレコーダーを再起動します。

まだ動作しませんか？

8. カメラとレコーダーのハードリセットを行って、完全に工場出荷時の設定に戻します。
レコーダーをハードリセットする, on page 10を参照してください。
9. リセットしたカメラをもう一度サイトに追加します。

まだ動作しませんか？

10. 最新のドライバーを使用してグラフィックカードをアップデートしてください。

まだ動作しませんか？

11. システムレポートを保存し、Axisのテクニカルサポートに連絡してください。
システムレポートを保存する, on page 17を参照してください。

AXIS OSをアップグレードする

新しいデバイスソフトウェアの更新により、最新の改善された一連の機能、機能、およびセキュリティ強化が提供されます。

1. リーダー装置のwebインターフェースに移動します。
2. [Maintenance (メンテナンス)] > [AXIS OS upgrade (AXIS OSのアップグレード)] に移動し、[Upgrade (アップグレード)] をクリックします。

3. 画面上の指示に従ってください。

すべての録画を消去する方法

1. 装置のwebインターフェースで、[System (システム)] > [Storage (ストレージ)] に移動します。
2. [Format (フォーマット)] を選択し、[Use tool (ツールを使用)] をクリックします。

注

この手順では、ハードドライブからすべての録画が消去されますが、レコーダーとサイトの設定は変更されません。

システムレポートを保存する

1. AXIS Camera Station Edgeでは、 > [Save system report (システムレポートの保存)] に移動します。
2. AXIS Camera Station Proでは、 > [Help (ヘルプ)] > [System report (システムレポート)] に移動します。
3. Axisヘルプデスクに新しいサポート案件を登録する際には、システムレポートを添付してください。

さらに支援が必要ですか？

参考リンク

- *AXIS Camera Station Edge*ユーザーマニュアル
- *AXIS Camera Station Pro*ユーザーマニュアル

サポートに問い合わせる

さらにサポートが必要な場合は、axis.com/supportにアクセスしてください。

T10186767_ja

2026-03 (M12.2)

© 2022 – 2026 Axis Communications AB